



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—181 2025 年 7 月 1 日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

村山談話 30 周年

代表 平井一臣

今年は、「戦後 80 年」であり、また「昭和 100 年」の年にもあたり、マスコミでもこれに関連した特集がしばしば組まれている。しかし、今年が「村山談話」から 30 年目にあたるということについては、ほとんど注目されていない。ある意味、「戦後 80 年」や「昭和 100 年」以上に重要な意味を持つのが「村山談話 30 年」ではないかと思う。そのことを説明する前に、村山談話とは何か、簡単に振り返っておこう。

1993 年、長らく政権与党の座にあった自民党が初めて野党に転落し、非自民の連立政権である細川護熙内閣が成立した。しかし政権内部の不協和音と細川の突然の退陣により政局が流動化し、与党復帰に執念を燃やした自民党は、世間をあっという間に驚かせる手法をとる。それまで政敵だった社会党（現在の社民党）と組んで政権の奪回を図ったのである。こうして当時の社会党委員長であった村山富市を首班とする政権が誕生した。首相に就任した村山は、それまで違憲としていた自衛隊を認め、日米安全保障条約も容認するという大転換を行い、社会党は混乱に陥る。野党時代に掲げていた政治理念は、政権担当という現実を前に無力だった。

とはいえ、村山としては政権担当中に少しでも「社会党らしさ」を出せないか、苦心もした。その一つが村山談話だった。

「戦後 50 年」にあたる 1995 年、村山は国会での決議採択を目指したが、譲歩を重

ねた修正文への批判も多く、半数が欠席するなかでの採択となった。この結果を見た村山は、日本による植民地支配と侵略戦争についてのより踏み込んだ内容の談話を発表することとした。村山談話は閣議決定を経て発表されたものであり、政府見解としての重みをもつ。



村山談話については、もう少し前後の文脈と関連づけて見た方がよいだろう。すなわち、宮澤喜一内閣における従軍慰安婦問題についての河野談話、首相就任時の細川護熙による侵略戦争と植民地支配に関する発言など、90 年代前半は、かつての戦争に対する謝罪と反省を含む言説が表明される流れがあった。冷戦時代の終焉と 55 年体制の終焉という国内外の変化のなかで歴史認識をめぐる新たな動きが始まり、この流れのなかで村山談話も実現した。

一方、こうした流れは、自民党内の保守派の危機感を増幅させた。やがて保守派の中心になる安倍晋三が国会議員となるのが 1993 年であり、村山談話に対する反発と怨念が安倍長期政権下での「戦後 70 年」の首相談話へと結実した。とは言え、「村山談話」に込められた精神が一掃されたわけではない。「村山談話」を忘却の彼方に追いやるのか、「村山談話」に立ち戻るのか、そうしたことを考えたい今年の夏である。

被爆80周年 「非核・平和行進」 スタート

原水爆禁止鹿児島県民会議と県被爆者協議会は、2025 年 6 月 3 日（火）に県内の各自治体や議会への「非核平和へのとりくみ」の要請行動をスタートしました。

初日の鹿児島地区では、各労組の青年部や女性部の自転車パレードや高退協のデモ行進と、参加者で鹿児島県庁前と鹿児島市役所前の集会を行いました。その後、鹿児島ブロックでは、ブロック内の自治体への要請行動を展開しました。（6 月 3 日～4 日）県内各ブロックでは、今後活動を行って行く予定です。

県庁前集会は、労組青年部や女性部の皆さんと、自治労県職労の役員、周辺の労組、団体の皆さま多数の参加で、10 時半に始まりました。

実行委員長（全水道鹿児島水道労組清敷大輔さん）は、「今こそ、『核兵器の無い世界の実現』へ向けて、世界唯一の被爆国である日本の果たす役割が重要と考えます。各自治体におかれては、核兵器を無くし、平和を守り続けるために、行政自らの取り組みにあわせて、日本政府への核兵器禁止に向けた一層の取り組みの強化を求めていると思います。私たちの運動を拡げることによって、日本政府の動向を変えさせるという強い意志を持って、平和行進を取り組もうではありませんか。」と、強く訴えました。

集会の後、自転車パレードは、市役所に向かって出発。アイムビルの前で高退協参加者と合流し、その後は徒歩で市役所までデモ行進。3 日は、集会・パレードと並行して自治体への要請行動も行いました。まず、県庁で県知事、県議会へ要請書を非核の願いを込めて届け、その後十島村役場、三島村役場、鹿児島市役所まで回り、要請行動を行いました。4 日は、日置市役所、いちき串木野市役所で要請行動を行いました。今、この瞬間もミサイルが飛び交う地球に私たちは生きています。いつ、核のボタンを押すかもしれない国のトップたちもいます。私たち日本人はこの世界で唯一原子爆弾を落とされた国民であり、核兵器の酷さ・恐ろしさ・苦しさ・悲しさをどの国民よりも知っています。私たち一人一人が声をあげ、この世界から核兵器を禁止させていかねばなりません。世界にその姿勢を示す時です。急がねばなりません。

私たち鹿児島ブロック護憲平和フォーラムは、非核・平和の歩みを止めることなく進み続けまします。共に進み続けましょう。



ミサイルよいくらしを!! 戦争 NO! 6.14 かごしま集会



主催「憲法壊すな・戦争法廃止! かごしまの会」による集会は 6 月 14 日午後「ドシャ降りの中」JR 中央駅前広場で、約 150 人余が参加する中で開催。

いま、県内各地で「軍事基地」づくりなどが進められていますが、現地を抱える 4 ケ所からの実態が報告されましたのでその内容を記します。

集会の冒頭には昨年末「ノーベル平和賞」を受賞された日本被団協代表委員(長崎)の田中重光さんの挨拶があり、今まさに「イスラエルとイランの核戦争にもなりかねない状況」が語られ、『核と人類は共存できない』という強い思いが語られました。



続いて県内各地における基地づくり実情が報告されました。

前園美子さん(馬毛島基地建設反対市民連絡会議)からは「基地は FCLP の恒常的基地となり、昼夜を問わず訓練がされること。工事関係者が今年 2 月末には 5,500 人となり市民生活への悪影響が出ている。家賃の高騰、交通渋滞、犯罪の懸念など、推進派をして『こんなはずじゃなかった』と、近海での漁ができずにいる。工事関係

に関わる人の賃金が高騰し、農業従事者や地元商店・施設で働く方がいなくなり、介護施設が閉鎖に追い込まれたりしている。」

次に武さとみさん(今年 4 月の町議選で初当選))からは、「23 年 12 月さつま町が弾薬庫建設の適地との報道。2018 年には町商工会・議員・町職員が大分・敷戸弾薬庫を視察しているなど住民へは知らせず進めていた。2 年ほどかけて適地調査をするとしていたが、5 ヶ月で昨年 12 月適地として決定。町民へ諦めよと言っている。いま月 1 回プラカードや横断幕で住民へのアピール行動を行っています。」

奄美からは関誠之さん(奄美平和フォーラム代表)から「2019 年 3 月自衛隊奄美駐屯地・瀬戸内分屯地が開設され、奄美本島のみならず徳之島・喜界島でも日米合同訓練が毎年実施されています。奄美は世界自然遺産登録の緩衝地帯なのに軍靴で踏み荒らされています。最後にお孫さん(小 6 年)の作文を紹介、『話し合いがつくる平和! ~戦争の原因は地下にある資源を奪うことだ』」

下柳田和弘さん(大隅平和センター事務局長)からは「鹿屋基地への空中給油機の訓練、2022 年からは米軍の無人偵察機の配備、そのために米軍 200 人が鹿屋市内のホテルに常駐し、自衛隊と一体となった訓練。偵察というのが離着陸の際は鹿屋の基地から操縦するが、上空に行くとアメリカからコントロールされるとのこと。機体は偵察ばかりでなく爆撃もできる機体。市長へは申し入れもしているが、市民の思いに応える回答はない」と。

集会は最後に「鹿児島を戦場にするな」「大軍拡・大増税反対」「馬毛島基地建設反対」「奄美のミサイル基地強化は止める」「鹿屋基地への無人機配備は止める」とシュプレヒコールで散会となりました。

鹿児島ブロック総会開催

鹿児島ブロック護憲平和フォーラムの第 16 回定期総会は、2025 年 6 月 1 日（日）13 時 30 分から、労福会館 7 階で開催されました。開会行事の後、2024 年度の活動の総括と会計と会計監査報告がなされました。限られた予算の中、鹿児島ブロックの工夫と努力が承認されました。その後、今年度の活動方針と財政方針等について審議されました。今年度は、会費の減額が計画されており、ブロック運営の厳しさが予想されていますが、会員の協力をいただき充実した活動にすることを確認しました。また、前田秀一事務局長が諸事情により事務局長を退任し、副事務局長に就任することになりました。そこで、新事務局長に退教協鹿児島支部出身の吉村公宏の就任が承認されました。



北薩ブロック総会開催

北薩ブロック総会は、2025 年 6 月 20 日（金）18 時 30 分から、北薩教育会館で開催されました。鹿児島ブロックと同様、事務局長の変更が審議され、これまでの早崎当和事務長から、新事務局長に園田直人（退教協）の就任が承認されました。

大隅ブロック総会開催

大隅ブロック総会は、2025 年 6 月 26 日（木）18 時 30 分から、肝付教育会館で開催されました。役員等の変更はありませんでしたが、これまでと同様力強く平和運動を進めて行きます。

始良伊佐ブロック平和学習会（広島）

始良伊佐ブロック平和運動センターでは、5 月 30 日～6 月 1 日の日程で岩国基地・広島への平和学習を行いました。参加者 18 名と現地の方お二人による学習でした。

初日はピースリンク広島・呉・岩国の方に同行していただき、岩国基地を間近で見られる場所に案内して頂きました。また、基地があるがゆえの住民の暮らしなど、実際に声を聞く機会も作っていただきました。

2 日目は広島県フォーラムの方の案内で、広島平和記念資料館からスタートし、原爆ドームの近くの、原爆犠牲者のお墓（墓石にいくつも 8 月 6 日と刻まれている）や、被爆者の森では、鹿児島県被爆者団体から送られた「カイコウズ」が元気に育っている様子を見たり、広島城では、軍都広島の歴史、被爆の痕跡など、加害被害の両面から説明を頂きました。

自分たちだけでは、見ることも知ることもできなかった広島を現地の方の案内で、充実した、中身の濃いフィールドワークができました。

